環境対応の決め手を探る

〈9〉

日刊競馬新聞社（東京都品川区）

FFGS　CTPシステム導入企業の先進的取組み

環境性と品質を高めたXZ－R採用

GP認定制度にもチャレンジ

環境負荷の軽減は今や企業経営に深くかかわる課題となった。廃棄物削減、節電、省資源などの取組みは、コスト削減、生産性向上など社内のコストパフォーマンスを改善する上で有効な手段となり得る。こうしたなかで富士フイルムグラフィックシステムズ（吉田整社長、本社・東京都千代田区、以下FFGS）のサーマルCTPシステムECONEXII、完全無処理CTPシステムECO&FREE「XZ－R」は、環境とコストパフォーマンスを両立させるソリューションとして注目されている。FFGSの環境ソリューションが実際にどのような形で経営、現場にメリットをもたらしているのか。XZ－Rを採用した日刊競馬新聞社（谷由紀社長、本社・東京都品川区）の印刷部門関連会社である三平印刷所の事例から探ってみたい。

◆CTP化と同時に完全無処理を採用

三平印刷所は1946年創業、もともとは競輪専門誌から請け負う形で記者から制作、印刷、販売までをしていた。その後、競馬専門紙の発行を開始し、現在は中央競馬専門紙である「日刊競馬」のほか、地方競馬の専門紙などを手掛けている。

日刊競馬の出荷部数は8万部を誇り、本社のほかにも札幌、函館、福島に生産設備があり、4年前から順次CTP導入を開始した。

また、CTP導入当初から一気に完全無処理版採用に踏み切り、生産効率化、環境対応に大きな効果を上げている。

谷社長は「その存在は東印工組の見学会で知っていたが、同業者が採用していたことが直接のキッカケ」と完全無処理版導入の経緯を語る。また、「CTP導入当時はフィルム出力が残っていたので現像機を置くスペースが取れなかった」ことも大きな理由だった。

一方、印刷現場では「当初は検版の問題で不安があり〝現像機は残して欲しい〟と言ったこともあった」（玉川大作工場長）と必ずしも賛成ではなかったが、当時のフィルム出力ではフィルム現像、返しの現像、刷版現像と都合3回の処理を行っていたため、完全無処理化による合理化メリットは大きな魅力だった。

さらに、以前は出力・現像機のメンテも含め、出力前の工程から印刷現場が関わらざるを得ず、スタッフ一人を製版作業に送ってフィルム面付けも実施していた。こうした背景から、完全無処理版導入後は、製版へのスタッフ派遣もなくなり、刷版出力以降の工程に専念することが可能になっている。

谷社長

玉川工場長

「検版については、デジタルの工程でしっかり行っていることで対処することにした」（玉川工場長）

◆あらゆる印刷条件にマッチ

同社が完全無処理版を導入した当初は一世代前の製品であるET－SHを使用していたが、XZ－Rに切り替わってからの性能向上は特に際立っているという。

「当社にとっては時間が勝負だけに刷り出しが重要。一気に5万5千回転までスピードを上げるため、そこに指紋や、現像残りで文字が見えないといった事故は許されない」（玉川工場長）

XZ－R以前は水の絞りやニップ調整など調整・メンテに気を遣っていたが、XZ－Rになってから刷りやすさがグンと増し、PS版同様に刷り出しがスムーズになった。

玉川工場長も「今回のリニューアルは画期的。置版も問題なく、これならどこに奨めても大丈夫」とXZ－Rの性能に太鼓判を押している。

工程合理化にも貢献する「XZ-R」

◆品質、生産性、環境性を同時に達成

無処理CTPプレート「XZ－R」はFPD技術（Fine Particle Dispersion細粒分散技術）とRSS技術（Rapid Stable Start-up高速安定画像形成技術）によって、現像処理タイププレートと同等の迅速な刷り出し性と、優れた水／インキバランスを実現した。また、CTPセッターの生産性をフルに発揮できる世界最速の露光感度を有している。もちろん、現像処理不要のため、現像関連経費が一切かからず、コストダウンにも貢献。環境性と品質を高い次元で両立した。「ガム処理すら不要な完全無処理は大きなメリット。一工程増えるのはもったいない」（玉川工場長）

今回の導入事例でも現像廃液が全く発生しないことでの環境面のメリットは大きい。

谷社長も「すでに現像廃液用のタンクは撤去した。これまで使用していた7台の自現機やフィルムを全廃できたことと併せて、そのCO²削減効果は計り知れない。今後もさらに環境対応に力を入れていきたい」とその環境効果を認める。

さらに、現像液、定着液の管理、現像廃液処理がなくなることでの省人化、コスト削減の効果もある。

現在、三平印刷所では日印産連のグリーンプリンティング認定制度への申請を準備している。すでに講習が終わっており、今秋の認定を目指す。

XZ－Rによって品質、生産性、環境性における完全無処理版のメリットは、ますます明らかなものになっているようだ。